



Title	開会あいさつ
Author(s)	関, 淳一
Citation	目で見るWHO. 2017, 64, p. 4-4
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86627
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

●日本 WHO 協会フォーラム「うつ病 ～一緒に話そう～」

開会あいさつ

公益社団法人日本 WHO 協会理事長 関 淳一

WHOでは4月7日の「世界保健デー」に合わせて毎年、その時点で大事なテーマについて世界的なキャンペーンを展開しています。今年のテーマは「うつ病、一緒に話そう！」(Depression Let's Talk!)です。WHOによると、うつ病に悩んでいる人が世界で3億人に上ると推定しています。うつ病は最悪の場合、自殺につながることもあるわけですが、世界でうつ病関連の自殺者が年間30万人発生していると推定されています。これは世界的な数値ですが、このテーマは日本でも時宜にかなったというか、今後の日本にとって非常に大事なテーマだと思います。社会構造や日常生活の状況が変わってきており、いろんなストレスもあるわけです。日本ではそれに直面しており、特に大きなことは日本が世界の先頭を切って超高齢社会に入ってきたということです。うつ病の3つの大きなカテゴリーは、

若い人たちの青年期、妊娠・出産期の女性たち、そして高齢者に分けていますが、WHOではうつ病はどんな年齢層でも起こり得ると強調しています。超高齢社会に差しかった日本では、メンタルな要素をもう少し考えなければならぬと思います。感染症や生活習慣病ももちろん大事ですが、精神保健ということに我々は関心を持ち、改めて考える時期ではないかと思っています。本日は杉浦先生に東京からわざわざ来ていただきました。講演のタイトルも「世界と日本と自分のうつ病」。世界ではどうなっているのか、日本ではどうなのか、そして自分たち自身はどのように考えるべきなのかをお話ししていただきます。先生はWHO本部の精神保健部でも実務に長く従事されています。この分野では最適な講演者のお一人です。貴重な講演をお聞きいただき、今後の対応に何らかの参考にしていただければと思っています。